

■：交渉、▼：ホルムズ海峡、●：国際社会、TP：トランプ大統領、⑤：海運、⑥：エネルギー
 青：米国、赤：イラン、緑：TACO 時期、内容は報道ベース (読売オンラインなど)

➤背景

- 2025 年 6月 米ミッドナイト・ハンマー作戦でイランの核施設を攻撃
- 12月 経済危機をきっかけとしてイラン全土で反体制デモ (1979年の革命以来最大規模)
- 2026 年 1/3 米、ベネズエラ地上攻撃、マドゥロ大統領を拘束
- 1/8~ イラン政府のデモ参加者弾圧 (3万人以上の死者)
- 1/13 TP、イラン国民に対し「抗議活動を続けよ…支援が向かっている」
- 1/23 リンカーン空母打撃群など海空軍部隊の中東への集結を発表
- 2/11 ネタニヤフ首相、ホワイトハウスでイラン攻撃シナリオを提示
 (TP「良い案だ」、バンス「悪いアイデアだが決断は支持」、ヘグセス「今実行すべきだ」、ルビオ：圧力強化は支持、大統領の翻意は求めず)
- 2/13 TP「イランの政権交代は起こりうる最善の出来事だ」
- 2/14 イランに対する数週間にわたる継続的作戦の準備を公表
- 2/16 革命防衛隊、ホルムズ海峡で軍事演習

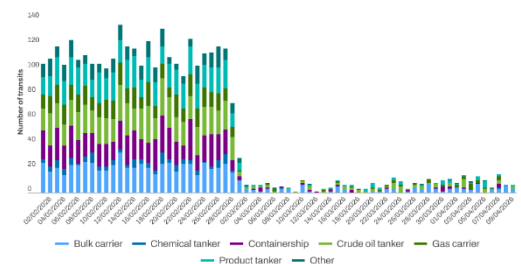


➤作戦の経過

- 2/23 ・ケイン統参議長「弾薬不足、同盟国の支援不足で作戦は困難を伴う」と報道
 -TP「報道は100%間違いだ」
 ・フォード空母打撃群、ギリシャ沖に到着
 ⑤ ホルムズ海峡航行の船舶保険料率が急上昇
- 2/26 ■高官協議「最後の機会」
- 2/28 開戦
 - ・米「エピック・ヒューリー (壮絶な怒り)」・イスラエル「獅子の雄叫び」作戦を開始
 -最初の12時間で約900か所を攻撃。核施設、ミサイル基地、軍事インフラが標的
 -TP、イラン国民に「自らの政府を奪還せよ、自由の時は近い」と決起を促す
 -宣戦布告、連邦議会の承認なし
 -イラン最高指導者ハメネイ師など政権高官多数が死亡
 - ・イラン「真の約束4」作戦開始
 -バーレーン、カタール、クウェート、ヨルダン、UAE内の米軍施設等へ攻撃
 ▼革命防衛隊「ホルムズ海峡の船舶の通過を一切許可しない」との無線通告
- 3/1 ●日本、外相談話「イランによる核兵器開発は決して許されない」

- ⑤ OPEC+, 4月からの増産開始決定
- 3/2 ●英国、当初拒否していた米軍へのディエゴ・ガルシア島などの基地使用を許可
- ロシア、友好国イラン支援に及び腰、ウクライナ和平仲介の米政権との関係維持を重視
- 3/3 ・TP「4~5週間より長く続ける能力ある。我々は容易に勝利するだろう」
- 3/4 ・イラン海軍フリゲート「Dena(75)」、スリランカ沖国際海域で米潜水艦の魚雷により撃沈
- 米軍施設攻撃で湾岸諸国に被害拡大、イランとの亀裂深まる
 - ーイランペゼシュキアン大統領、報復攻撃を釈明、中東の団結を呼びかける声明。
 - ・米上院、議会承認を得ずイラン攻撃継続を制限する決議案、否決。
 - ールビオ「法律100%守っている」
- 3/6 ▼イラン軍報道官「ホルムズ海峡は封鎖しておらず、するつもりもない」、湾岸諸国へ配慮
 - ・TP「無条件降伏以外あり得ない」、ペゼシュキアン「その夢は墓場まで持って行くべき」
- 3/6~ ⑤ 湾岸諸国のエネルギー施設が被弾 (3/8、原油価格100ドル/バレル突破)
 - ー液化天然ガス、アルミニウム、肥料、ヘリウムなど価格高騰
- 3/7 ⑤ 米国際開発金融公社、原油輸送の安定化へ最大200億ドルの保険適用
 - ・TP「地上部隊派遣あり得る」「(武装蜂起について) 戦争をこれ以上複雑化させない」
- 3/8 ・後継の最高指導者としてモジタバ・ハメネイ師が選出。TP「受け入れがたい」と反発
- 3/9 ・TP「イランのあらゆる武力を完全に壊滅させた」「軍事作戦は間もなく終わる」
 - ー米、イスラエルのエネルギー施設への攻撃を自制するよう要求
 - ・イラン、イスラエルに対しクラスター弾を使用
- 3/9 ⑤ 国内損保、ペルシャ湾を船舶戦争保険の「除外水域」に、保険料も大幅引上げ
- 3/10 ▼イラン、ホルムズ海峡に小型艇で機雷数十個を敷設と報道
- 3/11 ・イラン少年兵の死亡確認 (12歳以上を祖国防衛戦士として募集。16歳未満の徴兵、18歳未満の戦闘参加は条約で禁止)
- 3/11 ⑤ ホルムズ海峡の商船通航が激減【図①】
 - ー通常138隻/日、3/1-9の間で貨物船39隻、タンカー10隻、足止め商船は約150隻
 - ー通航船の半数は、制裁逃れの「影の船団」
 - ー一部船舶はAISを切って「ダーク」航行、または中国リンクを偽装して通過

Strait of Hormuz daily traffic by sector (Feb 1 - April 9, 2026)



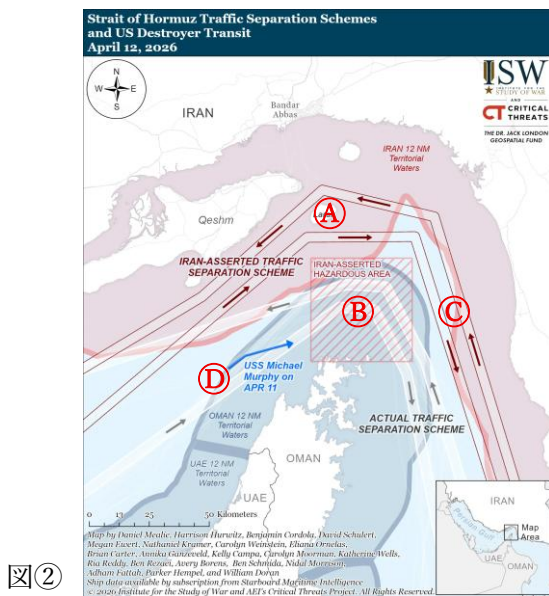
Source: Lloyd's List Intelligence / Seascope
 Note: Traceable transits of cargo-carrying vessels over 10,000 dwt. Dark transits included in the figures after February 28, 2026. Dark transit information will be updated as more data becomes available.
 April 9 data as of 0800 hrs UTC

Lloyd's List

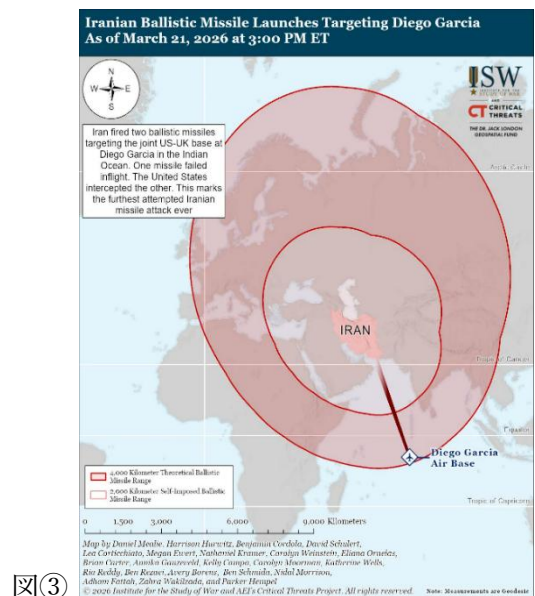
図①

- ▼中央軍は「Operation Epic Escort」を検討中
 - ー船団護衛方式ではなく、空・海・無人機による分散型護衛を想定
- 3/11 ・TP「ほぼ全ての機雷敷設艦を取り除いた」「(ホルムズ海峡を) 利用すべきだ」
- G7、安全条件整えば船舶護衛の可能性を検討
- ⑤ 商船三井コンテナ船 One Majesty の船尾部に損傷
- ⑤ IEA32カ国、4億バレルの石油備蓄強調放出を決定 (ウクライナ侵攻時は1.8億バレル)
- 3/11 ▼革命防衛隊海軍、ホルムズ通過にイランの許可必要、無許可航行船舶は攻撃対象

- 3/12 ●国連安保理、イランの**周辺国攻撃を非難する決議**、露中は棄権。
 ・TP「原油価格の動向よりもイランの核保有阻止が重要」
 –米国とイスラエルの**思惑に違いが浮き彫り**、戦闘終結の判断に影響する可能性
 ・米、ロシア産原油への制裁を緩和（当初4/11まで、5/16まで延長）
- 3/14 ・米軍、カグ島爆撃、TP「ホルムズ妨害やめねば石油関連施設も標的に」
 –米兵13名戦死、150名以上が負傷。戦費、最初の6日で1.8兆円との報道。
 –強襲揚陸艦トリポリ、佐世保から**追加派遣**
- 3/15 ・TP「中仏日韓英などが艦船を派遣することを願っている」
- 3/16- ・イスラエル、**イラン高官の殺害を続行**
 –**穏健な指導者と目されていたアリ・ラリジャーニ氏が死亡**、イランの強硬化必至
- ⑤日本、**石油備蓄放出開始**（備蓄量254日分）、原油調達先の多角化急ぐ
- 3/17 ●EU、紅海ミッション「アスピデス（盾）」のペルシャ湾への**任務拡大には消極的**
 ・米国、日本に日米首脳会談での有志連合「海上タスクフォース」への**支持表明を要請**
 ・TP、NATOや日本の艦船派遣「もはや必要ない」不満あらわ
- 3/19 ▼米中央軍、**海峡の封鎖を打開するための作戦開始を発表**
 ▼ホルムズ海峡情勢に関する**6か国（日英仏独伊蘭）共同声明**
 –海峡の安全通航の取り組みに貢献する用意があると表明（日米首脳会談の2時間前）
 ▼イランが「**安全回廊**」を設置、ラク島に革命防衛隊の「**関所**」【図②-A】
- 3/20 ・米、対イラン制裁を緩和しイラン産原油購入を1ヶ月認める。
 ・強襲揚陸艦ボクサー、**追加派遣**を決定
 ・TP、（日米首脳会談後）「**憲法上の制約があるが、必要とするなら、支援してくれるだろう**」
- 3/21 ▼TP、48時間以内にホルムズ開放しなければ**発電所を壊滅させる**。
 ▼イラン、**発電所攻撃なら完全封鎖**
 –イラン外相「**日本船の通過を認める用意がある**」
- 3/22 ・イラン、**ディエゴ・ガルシア**へ弾道ミサイル2発を発射（失敗×1、迎撃×1）【図③】



図②



図③

- 3/23 ■TP、イランと主要な合意点、発電所攻撃を 5 日間延期。(27 日まで交渉優先)
 –イラン、これまでも今も交渉は行われていない
- 3/24 ■米、戦闘終結に向け 1 ヶ月の停戦と核計画放棄を含む 15 項目の計画案を提示と報道
 –イラン、計画案を拒否。報道官「米国は自身と交渉している」
- 3/26 ・TP、発電所攻撃の 10 日間延期を表明
- 3/27 ・G7 外相会合、ルビオと EU 外相がウクライナ情勢で激しい口論
- 3/29 ・TP、「正直に言うとイランの石油奪いたい」(インタビュー記事)、
- 3/31 ・TP、「2~3 週間以内に終了」「米軍は間もなく撤収する」「石油が欲しいなら来て取ればいい」「米国はもう助けない」
 –米軍、最初の 4 週間で 850 発以上のトマホークを発射と報道
- 4/1 ・TP「今後 2~3 週間でイランを石器時代に逆戻りさせる」
 –イランは徹底抗戦の構え。
 ・TP、NATO からの脱退検討を明言
- 4/2 ●有志国連合 40 ヶ国以上 (米除く)、イランにホルムズの「即時かつ無条件」開放を要求
- 4/3 ⑤ 商船三井系 LNG 船 Sohar 出湾
- 4/4 ・TP「地獄のような報いが降りかかるまで、あと 48 時間」
 ▼イラン、イラク関係船はホルムズ通過の制限から免除、「制限は敵国のみ適用」
 ⑤ 商船三井系 LNG 船 Green Sanvi 出湾
- 4/5 ・TP「ホルムズ開放しなければ発電所や橋を破壊する。期限は米東部時間 7 日午後 8 時」
 – (F15 乗員 2 人目救助に関し)「イースターの奇跡だ」
 ▼革命防衛隊、ホルムズ海峡に「公式な通航料制度」を導入
 –支払い額は暗号資産か人民元で米金融制裁を回避。料金は船籍や国別の“優遇度”で変動
 タンカーの場合、最低価格は 1 バレル約 1 ドル (VLCC で約 200 万ドル)
- 4/7 停戦
 ・TP「(12 時間後までにホルムズが開放されなければ) 今夜、一つの文明が減ぶ」(核の使用を連想、「狂人理論」か)
 ■米国とイラン、パキスタンの提案を受け入れ、2 週間の停戦で合意。
 –TP「完全勝利だ」イラン「10 項目を受諾させた」
- 4/8 ▼革命防衛隊海軍が「指定ルート」と機雷「危険区域」を設定 【図②-③】
 –停戦以降、出湾できたのは 3 隻のみ
 –米政府関係者は「少なくとも 12 個のイラン機雷が存在」と指摘
- 4/8 ●国連安保理、ホルムズ海峡を航行する商業船舶の防御措置を促す決議案否決。露中が拒否権
 ・TP、ホルムズへの艦艇派遣など NATO に迫る
- 4/9 ▼モジタバ師、ホルムズ海峡の管理を「新たな段階に引き上げる」と発言
- 4/10 ・TP、パキスタン協議の失敗に備え「米軍艦に「最高の弾薬」を再装填している」
- 4/12 ■米・イラン、パキスタンで協議、合意に至らず。
 –イラン：ホルムズ即時開放を拒否、米国：空爆被害の賠償や資産凍結解除を拒否

・TP、ホルムズ海峡の「封鎖」宣言。「イラン攻撃なら地獄に吹き飛ばす」

- 4/11 ▼米駆逐艦 Frank E. Petersen (DDG-121)と Michael Murphy (DDG-112)、ホルムズを出入。
 - 自艦防御機能 (キングフィッシャー) を活用して危険海域通過か 【図②-③】
 - 米海軍は LCS (沿海域戦闘艦) + 水中ドローン (UUV) + へりの機雷戦パッケージ
 - LCS 3 隻は湾外に退避、佐世保からアベンジャー級 2 隻 (「Pioneer」「Chief」) が急派中。
 EOD (爆発物処理) ダイバーとドローンの遠征型 MCM 部隊 16 チームが中東に展開可能

4/12 ・TP、中国がイランに兵器を供給すれば 50%の追加関税

4/13 ▼米中央軍、「封鎖線」を設定しイラン港湾に出入りする船舶に対する海上封鎖開始。【図④】

4/15 ・イスラエル・レバノン 10 日間の停戦に合意、薄氷合意、
 臨戦態勢は崩さず

4/17 ▼アラグチ外相、停戦期間中のホルムズ海峡がイランの指定
 ルートで「完全開放」と発表。

・TP、海上封鎖の継続を表明。NATO の支援打診断る。

●英仏主導の有志国 50 ヶ国、戦闘停止後の機雷除去・艦艇
 派遣で合意。

4/18 ▼革命防衛隊、「再封鎖」を宣言 (18 日)、オマーン沿岸で
 商船被攻撃

・イラン、海上封鎖に対抗し陸上の国境貿易を活性化

4/19 ・米軍、オマーン湾でイラン船籍貨物船 Touska を拿捕。
 中国からの軍民両用品を積載。

- イラン、停戦再協議を否定。イラン、オマーン湾の米艦艇に UAV 攻撃。

・TP、2 週間の停戦合意を延長する可能性「極めて低い」

4/21 ・TP、イランとの停戦延長を表明。イランの指導部が「深刻に分裂」と指摘。

- 2 段階の対応方針：①イランが具体的な提案を示すまで海上封鎖、②協議か再攻撃を判断
 (米側：イラン損失は 5 億ドル/日、数日で石油タンクが満杯、イ側：世界経済の混乱)

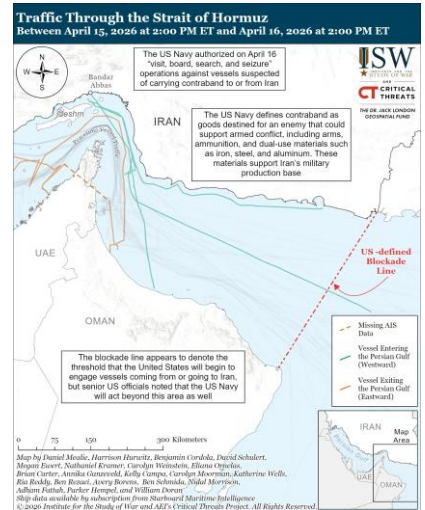
- 革命防衛隊海軍、オマーン沿岸で商船攻撃。

・米 CSIS、備蓄弾薬の 3~5 割消費、回復に 4 年、中国抑止に懸念と試算発表 【図⑤】

- 米国防総省、台湾防衛計画見直しの議論開始。

(報道否定)

- 米国防総省、機雷は 20 個以上、除去に 6 ヶ月かかる
 可能性と議員に説明。(報道不正確)



図④

Table 1: Status of Key Munitions

Munition	Unit Cost (USD)	Estimated Prowar Inventory	Estimated Use in the Iran War	Delivery Timeline (Months)
Tomahawk	\$2.6M	3,100	850+	47
JASSM	\$2.6M	4,400	1,000+	48
PrSM	\$1.6M	90	40-70	46
SM-3	\$28.7M	410	130-250	64
SM-6	\$5.3M	1,180	190-370	53
THAAD	\$15.5M	380	190-290	53
Patriot	\$3.9M	2,330	1,060-1,430	42

図⑤

・米、ベンガル湾でイラン産原油を積載した無国籍タンカーに立入検査

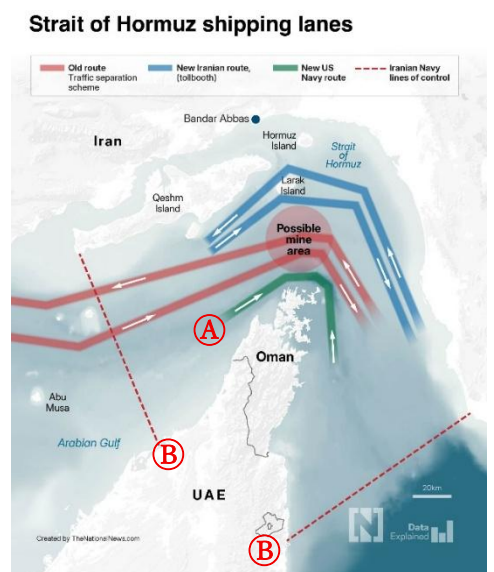
4/22 ・イラン、湾外へ向かう商船 (Francesca、Empaminendas) 拿捕、Euphoria 攻撃

4/22 ・米上院、民主党提出「60 日ルール」違反決議案、5 回目の否決。

- 5/1 が期限 (大統領の正式通知は 3/2)、民主党は毎週採決の構え。

・フェラン海軍長官、事実上の更迭

- ・米、NATO 加盟国「良い子」「悪い子」に選別するリスト作成か
- 4/23 ▼イラン、ホルムズ海峡にさらに機雷敷設（米中央軍発表）
- 4/23 ・ブッシュ空母打撃群が中央軍エリアに到着（東海岸からアフリカ南端経由）空母 3 隻態勢
 - －米空母は 2023 年 12 月のアイゼンハワー以来、バブ・エル・マンドブ海峡を通峡せず
 - ・米国防総省、スペインの NATO 加盟資格停止を検討
- 4/25 ■米イラン交渉行き詰まり、イランは米の海上封鎖に反発。TP、代表団の派遣中止。
 - －イラン、ホルムズ解決後に核の交渉との提案。
- 4/26 ・イスラエル、開戦初期に「アイアン・ドーム」を UAE に供与していたことを公表。
- 4/28 ⑤ 「出光丸」ホルムズ通過、「通航料は支払っていない」
- 4/29 ヘグセス、下院軍事委で民主党議員の「泥沼」発言に「恥を知れ」と激高
- 4/30 ■イラン、米国に新提案（内容不明）。
 - －TP、新提案に「満足していない」。再攻撃に向けた計画案の説明を受ける。
 - －イラン国内で主戦論台頭、アラグチ外相解任の動き。
- 5/1 ・TP、停戦合意の 4/7 以降、イランへの敵対行為は終結したと議会に書簡。
 - －ヘグセス、「停戦中は 60 日のカウントが止まる」と主張。
 - ・米中央軍、行き先変更させた商船は累計 45 隻と発表。
- ⑥ UAE、OPEC 脱退し原油増産の構え。OPEC+有志 7 カ国、3 ヶ月連続の増産決定。
 - ・米、イスラエル、カタール、クウェート、UAE への武器売却（総額 86 億ドル）を決定。
- 5/2 ■イラン、戦闘終結に向けた米国への新提案 14 項目。
 - （米からの 2 ヶ月の停戦を含む 9 項目提案に対する回答）
 - －TP、「検討するが、受け入れられるとは考えられない」
- 5/3 ⑤ イラン、ホルムズ海峡、アラビア湾の複数の商船を攻撃
- 5/4 ▼米国「プロジェクト・フリーダム」開始
 - －足止め船舶に対しオマーン領海内に設置した「安全航路」航行を誘導支援（護衛なし）【図⑥-A】
 - －アブダビ船、韓国船が被攻撃
 - ・ルビオ、軍事作戦はすでに終了、船舶誘導作戦に移行
- ▼イラン「管理海域 (control zone)」を宣言して対抗【図⑥-B】
- 5/5 ・イラン、UAE を 2 日連続攻撃（イラン否定）
- 5/6 ▼米、プロジェクト・フリーダム一時中止。
 - －エスカレーション回避？協議進展？
 - －2 日間で通過できたのは 2 隻のみ
 - ・フォード空母打撃群、帰国へ（316 日間展開）



図⑥